

令和7年11月26日
302会議室

令和7年第22回
立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

令和7年第22回立川市教育委員会定例会

1 日 時 令和7年11月26日 (水)
開 会 午 後 1 時 3 0 分
閉 会 午 後 2 時 2 0 分

2 場 所 302会議室

3 出席者

教育長	飯 田 芳 男		
教育委員	岡 村 幸 保	伊 藤 憲 春	
	小 柳 郁 美	堀 切 菜 摘	
署名委員	堀 切 菜 摘		

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長	齋藤 真志	教育総務課長	臼井 隆行
学務課長	澤田 克己	指導課長	寺田 良太
統括指導主事	石井 和成	統括指導主事	野津 公輝
教育支援課長	高橋 周	学校給食課長	近藤 忠良
生涯学習推進センター長	鈴木 峰宏	図書館長	黒島 秀和

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係	和田 健治	齋藤 綾乃	
----------	-------	-------	--

案 件

1 協議

(1) 「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」の見直しについて

2 報告

(1) 大山小学校における民間屋内プールを活用した水泳授業の一部変更について

3 その他

令和7年第22回立川市教育委員会定例会議事日程

令和7年11月26日

302会議室

1 協議

(1) 「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」の見直しについて

2 報告

(1) 大山小学校における民間屋内プールを活用した水泳授業の一部変更について

3 その他

◎開会の辞

- 飯田教育長 ただいまから、令和7年第22回立川市教育委員会定例会を開催いたします。
署名委員に堀切委員、お願いいたします。
- 堀切委員 承知しました。
- 飯田教育長 よろしくお願いいたします。
本日は、協議1件、報告1件でございます。その他は議事進行過程で確認をいたします。
次に、出席者の確認を行います。齋藤教育部長、お願いいたします。
- 齋藤教育部長 本日第22回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございます。教育部長、
教育総務課長、学務課長、指導課長、石井統括指導主事、野津統括指導主事、教育支援課長、
学校給食課長、生涯学習推進センター長、図書館長、以上でございます。

◎協 議

(1) 「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」の見直しにつ
て

- 飯田教育長 初めに、1協議(1)「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評
価」の見直しについて、を議題とします。
臼井教育総務課長、説明をお願いいたします。
- 臼井教育総務課長 それでは、1協議(1)「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点
検及び評価」の見直しについて、資料に基づき説明いたします。
点検・評価につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、
毎年度実施しております。資料の1、目的にありますとおり、今年度に策定した教育委員会
の分野別個別計画の施策体系を改定したため、点検・評価を見直すものでございます。
見直し内容は大きく2点で、1点目は評価の対象でございます。
別紙①をご覧ください。右側の旧と書いてある表が現在の評価対象の活動・施策で、左側
が見直し案となっております。
見直し案としまして、まず、教育委員会活動について、評価対象の活動・施策を3つから
1つにする案をお示ししております。右側の旧の番号が0-1と0-2につきましては、なかなか
評価になじまないのではないかとということ、他市の実績で申し上げますと、教育委員会活
動について評価をしている自治体は実は立川市と青梅市と2市しかないことなどもありまし
て、今回評価対象を1つということでご提案させていただいております。1つだけになって
しまうということにつきまして、ぜひご議論をお願いしたいところでございます。
続きまして、個別計画の施策に関する評価の見直しにつきましては、先ほどご説明したと
おり、今年度個別計画を策定したことに伴い、評価対象としていた基本施策が変更したため
に見直しものでございます。

なお、今回お示した見直し案では、教育委員会活動と施策の合計で評価対象の数が現行の22から24となりまして、2つ対象が増えるということでございます。

次に、2点目の変更についてご説明いたします。別紙②をご覧ください。別紙②は、現行の点検・評価表の左側のページの新旧対照表の資料となっております。

見直し内容といたしましては、真ん中あたりにあります「3取組状況と成果と課題」について、現状では「主な取組」と「取組状況」を分けて記載しておりましたが、内容が重複することもあったため、取組状況に一本化すること、それから、業務の次年度の方向性を評価の後の最後尾に移すことを考えております。その他の見直しにつきましては、ユニバーサルデザイン（UD）のフォントに統一することや「です・ます」調の表記とすることで分かりやすさや読みやすさ、親しみやすさなどを向上させたいと考えております。

別紙②の見直しにつきましては、評価をされております教育委員の皆さまへの影響がある部分でございますので、見直しに生かせるよう、実際の作業の中で苦労していることや改善点など、忌憚のない意見を頂戴できましたら幸いです。

最後に、A4の資料の裏面の一番下、3、今後のスケジュールをご覧ください。本日を含めまして、12月と1月の教育委員会定例会で計3回ご協議いただきまして、1月の教育委員会定例会で決定し、来年4月から運用を開始してまいりたいと考えております。よろしくお願いたします。

説明は以上でございます。

○飯田教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

小柳委員。

○小柳委員 ご説明ありがとうございます。

定例会の回数や総合教育会議の回数で評価するというのは少し不思議だなと思っていたので、いいと思います。

1つになることも、個人的にはそれでいいかなと思います。結局増えているわけなので、ここで項目が減っても同じくらいということで、ここは問題ないと思います。

文字のフォントや「です・ます」調についてもいいと思いますし、次年度の方向を最後に持ってくるというのも流れとしてはいいかなと思います。

1つだけ、ほかの教育委員の皆さまにも聞いてみたいのですが、「主な取組」と「取組状況」に分かれているところを「取組状況」に集約したいということですが、これは集約しないほうが見やすいのではないかと個人的には思っています。まず、「主な取組」でどんなことがあるのかというのが分かって、今こんな状態ですと「取組状況」でわかるので、分かれていたほうが個人的には分かりやすいと思うのですが、私だけかもしれないので、皆さまの意見を聞きたいなと思います。

以上です。

○飯田教育長 ほかに、質疑はございますか。

岡村委員、どうぞ。

○岡村委員 説明ありがとうございました。

まず、教育委員会活動の評価のところは、昨年初めて評価をして、小柳委員と同じで、会議の回数が多かった、少なかったというだけなので、1つでいいかなと思います。

ただし、教育委員会活動の対象の活動・施策が研鑽・視察に関することだけになると、1項目でもいいですけれども、教育委員会の運営は教育委員会としては1番重要なことなので、どういうふうな観点で評価するかがどうなのかなという感想です。

続いて質問ですが、1、学力・体力の向上のところですが、旧では学力と体力の施策が分かれていましたが、学力・体力の向上と1項目になっています。2つは違う分野ですので、どのような形で評価をまとめていくのかなというのは聞きたいです。個人的には、学力と言っても算数、国語、理科、社会とあって、さらに学力と体力まで一緒にしてしまうと、子どもの成長を見ていく教育委員会としてどうなのかなというのは、私としては感じるところです。

もう1つは、旧の4に特別支援教育の推進という項目がありましたが、その項目がないため、どこへ含まれるかを教えてもらいたいです。含まれていればいいのですが、どこに入るのかお伺いしたいです。

17の施策の立川のまちを知り、育てる学びの推進は、素晴らしい施策だと思います。感想と質問です。

○飯田教育長 では、臼井教育総務課長、お願いいたします。

○臼井教育総務課長 岡村委員よりご意見がありました学力と体力の部分につきましては、今回、個別計画の改定の中で、計画と組織を合わせるという大命題があり、施策が各課の係が担っている分野ごとに大きく分けられておりますので、係にはこういう仕事があつて、それを評価するという点で言うと見やすくなるのですが、岡村委員のご指摘があつたように、すごく大きなテーマのものが一緒になっているという課題はあるのかなと思っています。どうしても今までのように計画の施策ごとに評価するとなってしまうと、この分け方にならざるを得ないという部分がございます。

ですので、特別支援教育も含めて、各課の各係の職務内容が必ず1番から14番の中に振られており、その中で対応しているような形です。

○飯田教育長 よろしいでしょうか。岡村委員。

○岡村委員 分かりました。

○飯田教育長 ほかにございますか。

伊藤委員。

○伊藤委員 ご説明ありがとうございました。

点検・評価の難しいところは、令和7年度に取り組んだものを令和8年度に点検・評価するのでよね。つまり今年は旧の考え方で評価していたところを、今度は新の考え方で評価をするという形になりますと、例えば新の施策10、児童・生徒の保健衛生の推進というところ

ろは、どういう観点で点検・評価をしていくのでしょうか。もし分かれば教えていただければと思います。

○飯田教育長 臼井教育総務課長、お願いします。

○臼井教育総務課長 評価をどうしていくのかというのは、今回の見直しの1つの部分と考えています。今までもA評価をつけていいのか、B評価をつけていいのかという点はすごく悩まされていた点ではないかと思います。成果指標の数字に捉われて、成果の中の何パーセントを達成したらA評価にするというような評価の仕方があるかどうか1つあると思うのですが、そういう機械的に見るような評価の方法がいいのかどうか、それ以外にも違う視点でも評価をするのがいいのかということが、まず評価の仕方としてあるのかなと思います。

もう1点、伊藤委員よりご指摘のあった、年度が終わってから振り返り評価をするというところが、とても分かりづらい、我々も実際行っていて、本来これは、PDCAサイクルと言うのですけれども、プランをたてて、実行して、それを達成したかどうかという評価があって、次の計画に生かすということで、PDCAで回していくのが本来の理想の形なのですが、今は、後評価みたいな形になっている部分があり、そもそも今年1年間どのような取組をしますということを、あらかじめお見せしていない中で、評価だけ次の年に行うという形になっているという部分もあるので、その辺りの運用の仕方にも課題があると我々は思っています。

極端に1つの事例とすると、この施策はこういうことをしたらA評価にしましょうみたいなところを、ある程度早い段階でお示しした中で1年間取り組んで、実際1年経った後に、その取組を振り返ってみる、そういう評価の仕方もあるのかなと思っています。口頭での説明が難しいのですが、今までは事後評価に偏り過ぎていたのですけれども、伊藤委員のような意見もありましたので、ある程度、年度当初に本年度はこういう取組をして、これくらいを目指すので、それに対して1年経って見たらどうかと、振り返るような運用の仕方、評価だけではなく、全体の運用の仕方少し見直す必要があるのかもしれないというのは事務局としても感じているところです。

評価のつけ方の話に戻りますが、単純に目標として定めた数値が達成したかどうかということだけで評価するのか、あるいは取組自体を評価するのかのようなところで、評価のしづらさとか、こういった風な仕方にしたほうがいいのかのような教育委員の皆さまのご意見もいただくと助かります。

少し長くなりましたが、以上です。

○飯田教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 今おっしゃられたように、こういうような形でやりますよという形を示した上で、1年間取り組んで評価することはよく分かります。そうすると、この新様式を令和7年度の初めに1回示しておいていただいて、来年からはこうするのですよ、とりあえず今年も旧のほうでやりますけれども、来年からはこうなるのですよという形なら分かりますが、今初めて、例えば児童・生徒の保健衛生という言葉が出てきたように思います。これはどう

考えればよろしいのでしょうか。

○飯田教育長 臼井教育総務課長。

○臼井教育総務課長 個別計画は令和7年6月に改定があったものですので、どうしても令和7年度の計画については遡って後からの評価にはならざるを得ないかなという、5年に1回どうしてもそういう年が発生してしまいます。

先ほどの伊藤委員のご指摘の児童・生徒の保健衛生の推進というのは、新たに策定された計画の中でそういう施策がございますので、こういった施策体系になってしまうということでご理解をお願いできればと思います。今日、計画の冊子を持ってきていないので、お見せできず申し訳ないのですが、個別計画の中で、この施策は、どういう内容なのかという、今後5年間の取組に関しては記載がございます。

○飯田教育長 臼井教育総務課長、移行措置みたいな部分が表へ出づらいということでしょうか。

○臼井教育総務課長 はい、どうしてもそうなるのかなと思います。

○飯田教育長 委員の皆さま、ほかにご意見はいかがですか。

堀切委員。

○堀切委員 ご説明ありがとうございました。

フォントや「です・ます」調にすること、次年度の構成を再確認することと教育委員会評価については、賛成です。

先ほど小柳委員がおっしゃっていた「取組状況」についてですけれども、臼井教育総務課長がおっしゃっていたように、最初にこういうことに取り組みますと示して、それに対して評価をするというのは1つの方法かと思えますし、後から評価するのは少し仕方がないというふうに考えて、評価をされていてとても迷うところは、この施策が効果的だったかということより、取り組んだかどうかで大事で、取り組んでいればとりあえずA評価という感じで、チェックリスト的にこういうことに取り組んだので、オーケーという感じなのかなと思いましたので、私もそれだったら「取組状況」の欄は箇条書きになっていたほうが、見やすいし、分かりやすいというのはあります。

成果の部分も文章ですけれども、例えばですが、今度は違う指標になると思うのですけれども、「全国平均に対する到達度が100%を超えました」という成果に対して、それが本当に校内研究の推進や教職員研修によるのかどうか、相関があるのかどうかというのは正直分からないことですので、点数・評価の際に、通塾率ってどうなのでしょうと質問しました。もちろん相関がある可能性はゼロではないと思うのですけれども、これによってこうなりましたということをござわざ「成果」の欄で書くには、根拠のデータが足りな過ぎるといつも思うので、「到達度は100%を超えました」という成果は本当にそのとおりで、「授業がよく分かったと肯定的に捉えている児童は〇〇パーセントでした」も、そのとおりなので指標としてそれだけを書いてくれたほうが、これは本当に相関があるのかとか、別なところで悩んでしまうので、校内研究の推進は各学校の課題に応じ取り組みましたというのであれば、そ

それはそれでA評価でいいと思いますので、文章を短くといいますか、要素で分かったほうが、できている、できていない、取り組んだとチェックできる感じで見やすいと思いました。

例えばチェックリスト的に単年度では見ていって、成果の部分は次の計画を立てるときに5年間の取組状況をまとめると思うので、そのときに大きく検証していく、4月に始まって3月には終わってしまうので、単年度では大分難しいと思います。そういう5年間で大きく見えていますよというのがあれば、単年度としては取り組めたかどうかのチェックリスト的でもいいのではないかと私は思いました。

以上です。

○飯田教育長 ほかにご意見はございますか。

臼井教育総務課長、ほかに補足はありますか。

○臼井教育総務課長 今回の堀切委員の意見は非常にありがたい意見です。結果の部分と成果の部分について、非常に検証が難しいということ、単年度の積み重ねが最終的に5年間の結果になるといいかなという思いで言うと、単年度の評価を成果でやってしまうと非常に評価が難しく、できれば、アウトプットの部分で評価をしたほうが何となく評価をしやすいのかなと私も感じておりますので、よりシンプルな方法を選ばせていただけると、事務局としてもいいかなという気はいたしました。

以上です。

○飯田教育長 臼井教育総務課長、スケジュール的にはもう1回、協議、検討の機会があるのですよね。

○臼井教育総務課長 次回の教育委員会定例会でもう1回、今回のご意見を踏まえて手直ししたものを示して、最後1月の教育委員会定例会で決定するスケジュールを予定しております。

今回いただいた意見を踏まえ、「主な取組」と「取組状況」については、1項目にまとめるほうがいいのか、別々がいいのか検討させていただければと思います。

今と同じA、B、C、D評価でいいのかどうか等、その辺りでご意見は特にないでしょうか。評価をしていて、こういうところが分かりづらい、やりづらいな、などご意見はございますか。

○飯田教育長 教育委員のみなさま、いかがですか。

小柳委員。

○小柳委員 他の委員がどうお考えか分からないですけども、やはり数値で見て、ああ、この数値だったらクリアしているからA評価、これは基準以下だからB評価とかのほうが個人的には分かりやすいです。皆さん頑張っているからA評価とか、何となくA評価とか、そういう付け方は少し嫌だなと個人的には思っています。堀切委員がおっしゃったみたいに、今年はこの取組は何パーセントを切らないように、何パーセント以上は達成しますと基準をたてて達成すればA評価にしますというほうが評価はしやすいです。5年間を見て、データ上は数値に上がり下がりがあったけれども、効果はあったねということであれば、トータルで

見てよかったね、という感じで見るといいのかなと思いました。単年は数値で、長期は数値だけではなく、観点も含めてという感じでもありなのかなと思いました。

以上です。

○飯田教育長 岡村委員。

○岡村委員 評価の仕方ですけれども難しく、実際に点検・評価を行ったときにはA評価にするか、B評価にするか迷いました。19つの活動・施策があって、さらにその中にいろいろな取組がありますよね。どこを見て評価をするかですけれども、例えば学力・体力の向上の活動・施策についての評価は、全国学力・学習状況調査の平均正答率が何パーセントだったという基準のみで判断することには狭さを感じるのです。教育委員の皆さまはそれぞれいろんなお考えをお持ちですよね。評価理由欄には文章で数行書いてありますよね。体力はこれだけ各学校が頑張ってA評価で、学力テストは算数、数学はこんなに先生方が頑張って、両方ともA評価ですなど、そういう事務局評価を見て、さらにそれを、教育委員会定例会という会議で突き合わせて最終的に決めればよいと思っています。分かりやすい評価をするために単純化した1つの数値に対して、みんなで評価をするというよりは、1つの項目でも学力、体力だけではなくて、いろいろなことがあると思うのです。最終的には、教育委員の皆さまの意見をまとめるということになると思うのですけれども、そういう多様さを残したほうがいいかなという、私の考えです。

○飯田教育長 ほかに、教育委員の皆さま、いかがでしょうか。

堀切委員。

○堀切委員 いくつか見たことはあるのですけれども、ほかの自治体ではどういう評価方法をしている例がありますか。

○飯田教育長 臼井教育総務課長。

○臼井教育総務課長 大体S、A、B、C評価をしている自治体が多いです。中にはいわゆる定性的な評価、A評価やB評価をつけずに、これはよかった、これは少しできなかったのよう文章だけの評価の自治体もあります。ただ、大多数は、A評価やB評価、○や×というような評価を一応見せている、文章だけではなくてという自治体が多いかなという印象です。

今まで立川市はずっとS、A、B、Cの評価ですので、ここでそういう評価をやめて文章だけということにするのは、それなりの理由、考え方の大きな根拠がないと厳しい気はします。

○飯田教育長 立川市も現在、S評価があるのですか。臼井教育総務課長。

○臼井教育総務課長 立川市はS評価が最高です。S、A、B、C評価の4段階評価です。5段階評価の自治体もあります。立川市はA評価を一応標準としているのですけれども、どこを標準とするかも大切だと思います。例えば、立川市で今B評価になると、随分下がったなというイメージをどうしても持ってしまいます。B評価は、少し足りていないだけで、そんなに悪くないというところが浸透すれば、数字は届いてないけれども、先ほどの岡村委員の

ご意見のように、いろいろな努力をしているのだから、A評価ではないけれども、B評価でもいいですね、となればいいのですけれども、評価をつける側の人たちに、B評価はつけにくいイメージがあると、評価が難しくなることになります。

恐らく、C評価に落ちると相当な駄目なのだろうなと捉え方があると思うのですが、立川市でのB評価は実際そんなに基準を下回る評価ではなくて、一定の取組を行っているのですけれども、一部課題が残ったのがB評価という定義なので、そんなに悪くないのですけれども、B評価をつけるとなると、委員の皆さま、とても抵抗があるように感じるので、その辺りの評価基準をもう1回見直すというのも今回の改定にあたっての考え方の1つかなとは思っています。

○飯田教育長 岡村委員。

○岡村委員 B評価は少し悪いのかなという感覚が確かにありました。初めに全員でA評価はこうで、S評価はこうですということを理解できれば、より正確になるかなという感想です。

○飯田教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 B評価が結構増えていったのが、コロナウイルス感染症の影響でいろいろなイベント、例えば図書館でしたら、読み聞かせの年間回数が減った、生涯学習推進センターではいろいろな教室が減ったなどで、十分に計画したイベントが開催できなかったということでB評価になりましたね。ですから、B評価はそれなりに、しょうがない、我々が一生懸命取り組まなかったわけではなく、状況によってB評価であるということになればいいと思います。そうすると先ほどの児童・生徒の保健衛生の推進というところは、11月、12月からインフルエンザが大流行すると、来年の判定はB評価というような感じになるような気がするので、B評価はそんなに悪いものではない、一生懸命取り組んだけれども、なかなかできなかったという評価で、取り組んでいない、不祥事によってできなかったらC評価でいいと思います。いろいろ企画してやってみただけけれども、参加者が少なかったという場合は、A評価ではないけれども、B評価で、悪くはない評価と考えていただいたほうがいいのではないかなという気がします。感想です。

○飯田教育長 ほかにいかがですか。

多様な考えを持った複数人で評価されているという面でも、いろいろな評価を取っているとも言えるかなと思います。こういった観点は1人で評価するのは大変ですけれども、教育委員の皆さまの意見を取り入れながらというところもあるので、意見が分かれているときは考えを共有し、次に反映させればいいのかと思って評価をしてみました。

ほかにご意見はありますか。

小柳委員。

○小柳委員 今はS～C評価ですけれども、例えばB評価にマイナス、プラスをつける、以前も案として出たような気がするのですけれども、そういう評価の段階を細かくするというのはどうでしょうか。B評価のプラスだったら、ではA評価に近いからいいとか、そんな感覚になったりしないですか。

○飯田教育長 臼井教育総務課長、いかがですか。

○臼井教育総務課長 一旦持ち帰って検討したいと思います。今のお話は恐らくB評価がものすごく多くて、B評価の中で上のほう、下のほうがあるような現状の評価であれば、そのお考えでいいのかなという気もしました。ただ、どちらかといえば、A評価が多く、B評価の範囲が広くないではないですか。範囲が狭い中で、さらにプラス、マイナスをつける必要性があるかどうかは少し持ち帰って検討してみたいと思います。B評価の幅がものすごく広く、この活動・施策はB評価の中でも上のほう、下のほうという、そういう区別、区分をしたほうがいいようなときには、今小柳委員がおっしゃったように分ける意味がすごくあるような気もするのですけれども、立川市の場合は、今、A評価がかなり多くて、B評価が少ない中で、さらにその中でB評価の上のほうか、下のほうかと分ける必要性があるかどうか、持ち帰らせていただきたいと思います。

以上です。

○飯田教育長 ほかに委員の皆さま、ご意見はございますか。

堀切委員。

○堀切委員 評価も大事ですけれども、結局は次にどうしていくかという事がやはり大事だと思います。私たちも評価とコメントを書かせていただいているのですけれども、書きっ放しの感じがしています。せっかく次年度の方向性を一番下に持ってきて、次に向けてという感じの様式になっているので、次年度の方向性はこうするという部分をもう少し話し合えるなら、評価はこのままでも、次年度の方向性に、少しでも反映させられるともう少し意義があるかなと思います。評価自体に目が向くことは教育にとってあまりいいことではないと私は思っていて、A評価だから、B評価だからということもないですし、例えばテストの点数で全国平均に対して目標何パーセントとしていて、全国平均に対してどうかというテスト対策ばかり行っている自治体もあるくらいなので、そんなことをするくらいだったら、評価なんかいらないと思うので、形として評価をするけれども、評価理由と次年度の方向性までしっかり教育委員会定例会で話し合うということであれば、ありかなというふうに思いました。

以上です。

○飯田教育長 ほかにございますか。

岡村委員。

○岡村委員 今の堀切委員の意見に賛成です。次年度の方向性を評価の後に持ってきたということはとても重要なことであると思います。どうだったかという評価の話をして、評価も大事だと思うのですけれども、それを基に次年度の方向性ということで、いいなと思いました。

○飯田教育長 ほかにございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○飯田教育長 では、以上の意見を事務局で検討して、またお示しする形になるかと思いますが、臼井教育総務課長、いかがですか。

○臼井教育総務課長 なかなかまとめるのが難しいかなという気がしますが、いただいた意見

はしっかり検討させていただいて、次にお示しできるものがあればと思いますので、よろしくお願いたします。

1点だけ、教育委員の皆さまで意見をまとめていただきたいのですが、「主な取組」と「取組状況」はまとめたほうがよさそうですか。分離したほうがよさそうですか。小柳委員からは別がいいというご意見をお伺いしましたが、他の委員の皆さまからも何となくご意見をいただけるとありがたいです。

○飯田教育長 いかがですか。岡村委員。

○岡村委員 重点に何を置いているかというのが文章でなく、箇条書きですと、膨大な評価の内容の中で、ここを中心に取組むという、収まりきらないほど取組があると思うので、詳細は「取組状況」に書いてもらったほうがいいかなと思います。が、「主な取組」の欄があると分かりやすいことは分かりやすいです。

○飯田教育長 施策は学力・体力向上と、一塊の項目ですが、細かい具体的な内容は「取組状況」の文章に包含されていますよという意味なのでしょう、臼井教育総務課長。

○臼井教育総務課長 ご指摘は、計画をつくっている中でもたくさんいただいたご意見で、組織で分けてしまうと、今までは大きなテーマで2つに分けていた施策が1つになってしまうということが、どうしてもあります。市の全体の方向性として計画と組織体系を合わせるということになったので、学力と体力は大きなテーマですけれども、合わせざるを得ないということです。恐らく「主な取組」のところでも羅列が多くなってしまいう項目かなと思います。評価も難しくなってしまうかもしれないという懸念はございます。

○飯田教育長 背景をご説明いただきましたが、委員の皆さま、いかがですか。

小柳委員、どうですか。

○小柳委員 今のお話を伺うと、恐らく、新の様式だと、「取組状況」が長くなるということですね。

○飯田教育長 臼井教育総務課長。

○臼井教育総務課長 全く同じスペースの中でやらなくてはいけないので、小さいスペースの中でたくさん「取組状況」として記載されるかもしれない、施策かなとは思いますが。

○飯田教育長 小柳委員。

○小柳委員 そういう事であれば、個人的には「主な取組」の項目があったほうが、市民の方が見る機会があるわけですね。あまり長く書くよりは、主な取組ですから、主なものが書ければというのもあるし、私は絶対に残っていないと嫌ですというわけではないのですけれども、残したほうがいいかなと、見やすいかもしれないなという程度で思っています。

○飯田教育長 堀切委員。

○堀切委員 最初の発言と同じ話になると思うのですけれども、文章が短く、要素が分かりやすければいいかなと思います。課題を踏まえたテーマを設定し、研究を進め、教育目標の実現に向けて、などの取組以外の記載は要らないので、次の年も取組内容は変わらないので、各学校は課題を踏まえたテーマを設定し、研究しました、でいいですし、そういう1行くら

いで書かれていれば、これって校内研究のことだな、研修のことだなと分かるのでいいかなと思いました。

以上です。

○飯田教育長 岡村委員。

○岡村委員 「取組状況」だけにしても分かりやすく、見やすければいいということだと思うのです。新の様式で言えば、校内研修の推進は、こういうことに取り組みました、学習支援の充実は、こういうことに取り組みました、と分かりやすく、短いセンテンスで書いてくれば、2つの項目を1つにしても、小柳委員の言っている部分も入ってくるのではないかなと思います。左側の新の様式の「取組状況」は読むのが大変、読み切れないなというのがある、それはどうかなと思います。

以上です。

○飯田教育長 ほか、出席されている部課長から補足はありますか。

齋藤教育部長。

○齋藤教育部長 本日の見直しの説明の前段として、個別計画を見直したという前提を再度お知らせさせていただくとともに、学校教育振興基本計画だけではなく、ほかの教育の計画についても、昨年度、教育委員の皆様にも内容の検討・決定に関わっていただいておりますが、各分野ごとに取組の内容の濃さ、粒度が少し違っているのだろうなとは思っています。ですので、「主な取組」が、ある施策では2つや3つ記載されるかもしれないし、別の施策はもう少し数が少ないかもしれないというような粒度の調整というところは課題です。今回、話題に挙がっている、例えば学力・体力の向上のように、子どもに直接関わる教育活動の部分は非常にボリュームが大きい部分がございますので、一旦は5年間の目標も含めて計画で示させていただいているというところを土台にしながら、ただ、皆さまが単年度で教育委員会の活動や施策を点検・評価するにあたって、分かりやすくなるように本日のご意見も含めて、少し検討してみたいと思っております。

以上です。

○飯田教育長 では、ほかにございますか。

臼井教育総務課長。

○臼井教育総務課長 1点、資料に誤りがありましたので、訂正をお願いいたします。

別紙①の左側、新の様式の5番です。「連続例のある」となっていますが、正しくは「連続性のある」でございますので、「連続性」に訂正をお願いします。

○飯田教育長 では、本日の内容について、また事務局で協議調整していただいて、次回提案という流れでよろしくをお願いいたします。

教育委員の皆さま、ほかにございますか。

[「ありません」との声あり]

○飯田教育長 ではないようでございます。

では、本日の協議は以上としたいと思います。

本日いただいたご意見を参考に、再度、教育委員会定例会で協議したいと考えております。

◎報 告

(1) 大山小学校における民間屋内プールを活用した水泳授業の一部変更について

○飯田教育長 では、続きまして、2報告(1)大山小学校における民間屋内プールを活用した水泳授業の一部変更について、に入ります。

寺田指導課長、説明をお願いいたします。

○寺田指導課長 大山小学校における民間屋内プールを活用した水泳授業の一部変更について、ご報告いたします。

大山小学校では、令和7年度の水泳授業については、野村不動産ライフ&スポーツ株式会社を委託先とし、メガロス立川北館で実施してまいりました。しかし、令和7年7月28日、当該事業者の他施設で事故が発生し、スイミングスクール等を当面の間、全施設で休止するとの報告を受けたため、9月から10月に実施予定であった大山小学校特別支援学級の水泳授業の実施が困難と判断しまして、利用施設を変更することいたしました。

大山小学校特別支援学級については、金田スイミングクラブに委託し、令和7年12月から令和8年1月にかけて実施いたします。

なお、令和8年度以降の施設利用については、児童の安全確保を最優先に考え検討を進めてまいります。

報告は以上です。

○飯田教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。

説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

〔「ありません」との声あり〕

○飯田教育長 質疑は、ないようでございます。

これで、2報告(1)大山小学校における民間屋内プールを活用した水泳授業の一部変更について、の報告及び質疑を終了いたします。

次に、3その他に入ります。その他、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○飯田教育長 その他はないようでございます。

◎閉会の辞

○臼井教育総務課長 それでは、次回の日程を確認いたします。次回、第23回定例会は、令和7年12月10日、午後1時30分から302会議室で開催いたします。

これをもちまして、令和7年第22回立川市教育委員会定例会を終了いたします。

午後2時20分

署名委員

.....

教育長